



田のわだい

今月の題字 佐々木 那由基君 (船越小6年)



東日本大震災から丸4年 追悼式などが執り行われる

東日本大震災から丸4年となる3月11日、町中央公民館大ホールで「東日本大震災・大津波 山田町犠牲者四周年追悼式」が執り行われました。式には遺族や来賓ら約350人が出席し、震災が発生した2時46分に合わせて黙とう。式の最後では遺族や来賓、一般参列者らが花を手向け犠牲者の冥福を祈りました。

また町では、町内で遺体で見つかった身元不明者のための納骨堂を後楽墓地に建立。3月19日には納骨の法要が営まれ、佐藤町長らが焼香しました。

町とファイダーが覚書締結 大沢川向の集会所が再建へ

4年前の大津波で全壊した大沢川向地区の集会施設が、再建されることになりました。これは、町から支援要請を受けた(公財)国際開発救援財団(ファイダー)が同施設を建設し、町に寄贈するものです。2月23日の覚書締結式では、佐藤町長からきめ細やかな支援体制に対して感謝の言葉が送られ、同財団の岡田透朗事務局長は「皆さんが普通の生活に戻れるよう尽力したい」と応じました。

新しい集会所は平成28年度に着工される見通しで、旧施設から西に約300m離れた高台に新築されます。



大浦漁村センターに鎮魂碑 犠牲者35人の冥福を祈る

3月11日、大浦漁村センターで津波犠牲者の冥福を祈る鎮魂碑の建立式が行われました。鎮魂碑は大浦漁村づくり振興協議会(生駒利治会長)が設置。高さは約2mで大浦地区と小谷鳥地区の犠牲者35人の名が刻まれています。式では黙とうに続き神事が行われ、生駒会長や佐藤町長、遺族らが玉串を奉納しました。

遺族を代表して横田敏充さんは「きょう、犠牲者の名が刻まれ未来に残される。その未来を生きられた私たちは防災意識を持って生きていく」と、碑に誓いを立てました。